

ディアカコニア



3 1 2

そのびとりのまなざし

衣笠病院グループチャプレン

大野 高志

確かに言っておくが、この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた。

(ルカ 21・3)

エルサレムの神殿で

最後の時が近づいて、イエスの一行はエルサレムへと上って行きました。

「私は大きな力を誇るためにこの世に来たのではない。むしろこの世では価値なき者だと蔑まれる小さな命、そのびとりに出会ったために来たのだ」――そんなメッセージを携えて、小さな子ろばにまたがり、御自身を十字架へと押しやることになる町にお入りになったのでしよう。

イエスはそれから毎日、神殿にやって来ては人々の動きをご覧になり、その教えを説いておられました。そしてある日のこと、「婦人の庭」と呼ばれる女性でも立ち入ることのできた境内の一角に入り、

そこに並ぶ13個の「賽銭箱」の中の一つに目を注いでおられたのでした。「箱」と訳されていますが、実際はラツパ型の角笛のような形をしていたのだそうです。

賽銭を投ずる人は、その傍らに立っている祭司に金額を告げて渡します。祭司はその金額や硬貨が律法の定め通りであることを確かめ、そこに入れます。この時代、紙幣はありませんから、その音がよく響いたことでしょう。金持ちたちは、わざと大声でその大金額を告げ、あたかも、自分たちこそがこの神殿とユダヤの宗教システムの守護者なのだとうぬぼれたのだったのではないかと思います。

あふれる悲しみの捧げ物

しかし一方、そこに現れたひとりのやもめ。彼女が献げたのはレプトン銅貨2枚。「レプトン」というのはギリシア語で元々「軽い」という意味の言葉です。この地方で通用している硬貨として最小の銅貨でした。レプトンの複数形が「レプタ」。すなわち、2レプタ。これは1クアドランスに相当し、当時1日の日当

とされていたデナリオンの64分の1に当たります。私たちの感覚で言えば、およそ百数十円といった感覚なのではないかと思います。賽銭箱に投じられても、レプトン銅貨が大きな音を立てることはなかったでしょう。やもめ、すなわち夫を失って今日まで生きてこなければならなかったこの女性にとって、それが精一杯の額であった、それはこの人の全財産であつたというのでした。

イエスは、その国家システムをさえ牛耳ろうとする「金持ちたち」には目を留めず、ただひとりの女性、その2レプタに込められた思いに目を留めておられました。そして、こちらの方が大きい、「たくさん」あふれる悲しみがそのまま献じられた捧げ物だと、そう言ったということです。

びとりをちゃんと見て

ある時、衣笠病院グループの大きな柱の一つである特養衣笠ホームを草創期から支えてくださった元介護員の方が衣笠病院で亡くなりました。入院されている

間にお訪ねして、昔のいろんな思い出をお聞きしたのですが、その中にこんな話がありました。

ある入居者の方が病を得て入院されることになったのです。でも身寄りが無い。今でこそ、完全看護は当たり前ですが、その当時は、身の回りのお世話は病室で家族がすることも多かったわけでした。「じゃあ、私たち寮母が順番に泊まり込もう」ということになって、交代で病室に寝泊まりしたといいます。

「今では考えられないことですね」と、私が言うと、その方は、「いや、その頃もずいぶん批判されたのよ」と応えられました。「誰にでもそうして上げるんですか？みんなに泊まり込むんですか？不公平ではありませんか？他の人から文句が出たらどうするんですか？」——やつぱり、周りからはそんな風に言われた、ということです。でも、この方は言われたのです。「私たちは、すぐに、みんな同じように、って言う。でも、それって、その人をしっかり見ていないって事じゃないかしら。その人がどんな人

で、どんな問題を抱えていて、どんなつながりで生きているか。『みんなに同じように、やる』っていうならいいのよ。でも『みんな同じようにするために、やらない』で『おこう』っていうのは、なにか怠けていることになるんじゃないかしら。そうおっしゃったのです。

これは深津文雄牧師が大切にされた「底点志向」と通じるように感じました。私たちはしばしば、自分がやらないでおくための理由に「他の大勢」を持ち出します。今この人が求めており、今なら私にできるはずのことも、「他の大勢」を思い浮かべて「しない理由」にするのです。しかしこの方は、そのたったひとりの今の困難に向き合い、その苦しい胸の内に思いを馳せられ、行動したのです。衣笠ホームというところが、そんな「ひとり」を思うことのできる働き手に支えられて今日までを来たのだと思われ、心を揺さぶられたことでした。

「命を勝ち取る」ために

イエスは、金持ちたちの資金で潤う神

殿を指さし、こんなシステムは崩壊する、「一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る」(ルカ21・6)と予告されました。イエスは問いかけておられたでしょう。「あなたたちは神殿を、すなわち国家の統治機構を、誰のためのものとし、誰の幸福を願う場としているのか」と。やもめに目を向けず、金持ちたちの力に、そしてそれに支えられる巨大なシステムにだけ目を向けていても、それは早晚灰燼に帰すのだと、そう諭されたようにも思うのです。

2025年。国家の統治機構までがますます富こそ力と憧憬し、それを正義と呼んで憚ることのない世界を築きつつあるような気がします。そのような中であって、私たちはキリストの向けられたその眼差しを忘れないようにしたいと思います。キリストは言われました。

「忍耐によつて、あなたがたは命を勝ち取りなさい」(ルカ21・19)。

命を勝ち取るために、その最も弱くされた「ひとり」と共に生きることから、本当の福祉を実現したいと願うのです。

かにた婦人の村

新棟落成記念式を終えました

施設長 五十嵐 逸美

本誌の読者の皆様はじめ、多くの方からの温かいご支援のお蔭を持ちまして、24年11月末にかにた婦人の村耐震改築整備工事を竣工し、12月中旬には引越しを終え、聖夜祝餐会を新しい食堂で過ごすことができました。

入所者の生活が落ち着いた25年2月11日に、この工事の費用を助成してくださった国（厚生労働省社会援護局）と都道府県の女性支援担当者の方々、工事に携わってくださった設計者・工事業者の方々、多額の寄付をくださった企業の代表者はじめ社員の方々、元利用者、地元NPOの方々、館山市長、そして法人関係者の方々など総勢86名をお迎えして、落成記念式典を行いました。

式典に先立ち、キリスト教の理念で運営されている法人として開会礼拝を伊藤瑞男牧師（法人監事）の司式により行い、

式典では、大沼理事長、五十嵐施設長の挨拶の後、厚生労働



森 正一様



中村芳美様



中村彩子様

省社会援護局総務課女性支援室長・中村彩子様、千葉県女性



小川まゆみ・ゆい様



杉原生広様



白幡 賢様



大沼理事長

サポートセンター・中村芳美様、館山市長森正一様からご祝辞をいただきました。次にこの建て替え工事のために入札時から工事にご協力いただいた白幡興業株式会社社長・白幡賢様、設計監理者として計画段階から奔走していただいたくろ



ふね建築研究所代表・杉原生広様、かにた婦人の村施設整備担当として、この事業の基礎を築いてくださいましたが、ご病気のため、

志半ばにして召天された小川照明元職員のお三方に、感謝状を贈呈しました。

その後、式典会場たんぽぽホールから新棟の正面玄関前に移動し、ファンファーレの響くなか、天羽名誉村長、大沼理事長、白幡社長、厚生労働省中村室

長、利用者代表のOさんによるテープカットを行いました。

この後、新棟食堂で、かいた婦人の村調理部が腕によりをかけて作ったごちそうをいただきますがらの懇親会。協力企業日本貸貸保証株式会社代表梅田真理子様、



ました。

最後に、職員と利用者有志で、かいた婦人の村のテーマソング「やすらぎのいえ」を歌って、懇親会を閉じ、その後、新棟見学会を行いました。当日はお天気が良く、暖かい日差しの中でテーパー

トをすることができましたし、ご参加いただいた皆様のご協力もあって、時間通りに会の進行を終えることができました。新棟のご案内

本誌読者の皆様にも、新しい建物の概要について、簡単に述べさせていただきます。

旧寮舎（生活棟）は個室化されておらず、一人が自分のスペースとして使える面積が1965年当時の最低基準3.3平方メートルと狭く、一人で休みたいと思っても、なかなかできない環境でした。新棟は、3階建ての居住棟に居室60室があり、

食堂・調理室・職員室・医務室・事務室は2階建てとなっており、二つの建物を繋いで繋



外観—旧食堂棟テラスより

ぐ構造になっています。全室個室（ベッド、タンス、机と椅子など）にすることができました。3階には心理療法室も置きました。



感染症

対応にも配慮して、全室に洗面化粧台を取り付け、インフルエンザなどの感染症に罹った時に隔離で

きる（バスルームとキッチン完備）の隔離室もフロアごとにおきました。2階は高齢者の生活スペースとし、介護ベッド付きの部屋が20室、食堂にそのまま行かれる、バリアフリーな間取りになっています。

食堂は旧食堂のイメージを引き継ぎ、天井が高く広く、明るい空間になります。

した。設計の杉原氏は、礼拝堂にも使えるように考えたと述べておられました。

1階と3階には10室ごとに憩いのスペースを設け、

利用者同士が交流できるラウンジにしました。

実際に、階を超えた人の交流があり、深津先生がコロニー精神を現す言葉として大切にされていた「共に生きる」が、引き継がれていることをしみじみと感じております。



今回の建替えにあたっては、点在する作業棟を3棟解体撤去することになったので、入所してこられる若い人たちの

ニーズに対応して新しいことを始めるための建物がなくなっていました。新たに、料理やお菓子作りを学んだり楽しんだりできる小さな建物を建てようという計画が立ち上がり、第2期整備事業「学び／遊び／作り場建設」と銘打ってクラウドファンディングをはじめました。

(4月4日11時まで)

今後の支援について

売春防止法に代わる「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が24年4月から施行され、



女性自立支援施設(旧婦人保護施設)に入所できる女性の範囲は格段に広がったはずなのですが、入所を決定する権利・措置権を持つ行政機関である女性相談支援センターの対応はまだまだ新法の内容に追いついておらず、女性たちは困難な問題を抱え続け、経済的にも精神的にも困窮したまま可視化されず、社会の隅々で耐え忍んでいる実態があります。

女性支援新法では、官と民が対等な立場で手を取り合って連携していくことが求められておりますので、かにも全国の女性支援に携わる民間の団体と情報を共有し、未だ救われていない多くの困難な問題を抱える女性たちが、少しでも早く公的な支援を受けられるように、国や地方の行政機関に働きかけていきます。

また、日中活動の場所を1階に設けました。元々、洗濯作業班をここに置くという計画でしたが、洗濯班の利用者たちが、地域の就労支援事業所に通所するようになり、洗濯作業を維持していくことが難しくなり、ここを手芸などの室内作業の部屋として使うことにしました。

女性自立支援施設(旧婦人保護施設)に入所できる女性の範囲は格段に広がったはずなのですが、入所を決定する権利・

ター事業を請け負っている民間の団体や、千葉県生活困窮者支援実務者ネットワーク(通称ちこネット)との情報共有、研

そのような活動への参加により、地元千葉県の女性支援事業の充実にも貢献していきたいと考えております。新棟1階には、地域交流スペースを設けましたので、地域を足がかりにした女性支援も展開していきたいと考えております。

新しい
取り組み
最近、20
歳前後か
ら30歳代
の比較的
若い女性
の新規入
所が続い



ており、特に知的障害などのハンデがなく、生活を立て直すためには、資格の取得や就労場所を開拓する支援が必要です。

ただ、虐待や性被害に遭った女性には治療やカウンセリングなどによる心身の健康回復支援が優先されるべきです。

が、それと並行しての支援については、

現状では女性自立支援施設で本人支給金として利用者が自由に使えるお金は極めて少額で、例えば美容室に行くお金を捻出するのにも苦労しているような実態があります。

そこで、クラウドファンディングの「継続寄付」を活用して、クレジットカードなどにより少額の寄付を毎月送っていただける仕組みを作りました。すでに160万円の基金が積みまれています。これを活用し、収入のない利用者が、一定の収入が得られるまで



繼續寄付

かいた婦人の村



クラウドファンディング挑戦中 目標金額 **1,500**万円 2025年4月4日(金)まで

困難を抱える女性に元気を。

学び/遊び/作り場建設 | かにた婦人の村

2020年12月、個人保護情報購入詐欺師から個人情報は買収の募集が完了し、新たな生活が始まりました。このようにたいへんな出来事にも、心よく対応し乗り越えます。

新刊は増補版に付いて、古い建物も解体する必要があったため、書庫や工法、料理など、夫々に「日本の運動」の場が失くさる心配がされた。そのため、「新しくどんな場所がほしいですか？」と入居者に聞いたところ、思い思いの「やってほしい」という声が上がったのです。

「ハリウッドの影で世界の物語をほしい」「利潤が優先する映画はほしくない」「自分のめいやを争って見せたくない。」

こうした直感こそ、入道直後の田原にとってもっとも大切にすべきもので、この綱を握り、入道後のけぼるの国産映画の発展をめざした。しかし、その直感がいつしか、再びワタナベ・ファンタジーにまでつながる道を開き、こぼれにまみれた。

この新しい日本活動の確立、女性たちの能力で生き抜く力を取り戻す点と心算は重要です。それをめざして並に共に働くことで、社会と心にとまるとつなぐ意識を大切にしたいと思っています。

心にとまるとつなぐ、両方をめざると女性たちの光輝にするために、温かいご賛同をお願いします。

ウェブサイトからのご寄付

Webサイトからご購入いただけます。下のQRコード。もしくは検索から、グレッジットサーチ、コンビニエンスストアでは随分品揃えが豊富に行きます。

かに池 日中活動レディーフォー

WEBサイトからのご寄付が難しい方は、裏面に直接振り込み用の申込書がございますので、ご活用ください。

お問い合わせ 社会福祉法人ベテスダ福祉交流の家 かにた郷土の村
E-MAIL: kasita.cro.fun@gmail.com TEL: 047-023-2280

READY FOR



学び／遊び／作り
場建設

の日常生活費や、資格取得費用などを助成する支援を始めております。

こちらの方もご協力いただくと助かります。



イラスト：丸山潤

エマオからの報告

1年半の報告を

させていただきます

開所以来11年目を迎えるようとしています。

開所1年目に利用開始した特別支援学校高等部を卒業した3人組はもうすぐ10年になります。ひとりでは、なかなか難しい方達ですが、3人揃うとお互にかばいあったり、注意しあったりと大きなトラブルもなく過ごしています。

この3人の利用者の中の一ひとり、Kさんのおばあちゃんが、昨年6月初めに急逝されました。一家のキーパーソンだったおばあちゃんの急逝は、一家の生活に大きなダメージとなりました。

夏服への衣替えの途中での出来事だったので、家の中は冬物の洋服でいっぱい。冬服を片づけて夏物を出し始めていた様子が見て取れました。食事や洗濯、少し支援が必要な息子（Kさんの父）や孫のKさんのお世話に加えて、高齢のおじい

ちゃんのケアも必要でした。市境の峠にある家は商店も遠く、残されたおじいちゃん、買い物にいくことも簡単ではありません。おじいちゃんにもケアマネさんがついて下さり、デイサービスや家事支援など、ヘルパーさんが入ることに、一家の生活は守られています。

Kさんといつかは、グループホームで生活が出来るようになれば良いなと思います。支援を続けています。



2月18日午後、エマオから500メートルくらいの所にある天神山へ散歩に行きました。河津桜が八分咲きでした。寒い日の続いた合間の暖かな午後、バザー準備の息抜きにと思って出かけました。

昨年春、特別支援学校高等部を卒業した女性が利用開始してもう1年になります。4月から12月までの給与等総支給金額が20万円を超えていました。私も少し驚きましたが、総支給金額表を見たお母さんは、「この子がこんなにもらつていたんですね？ びっくりだわ。」と。

この女性は、小学校2年生の時から、私のサッカーチームに入ってサッカーをしていました。最初に会ったときは、両足で立って足の前にあるボールを蹴ろうとすると、左足はボールの上を通過してしまふ。走るのには、ピョコッ、ピョコッと。――入団を断ろうかと迷いましたが、断る理由が見つけれませんでした。せっかく「サッカーをやりたい。」と言っているのですから。条件として、「ひとりではなく、兄弟のだけれど、一緒に

サッカーをしに来てほしい。何かあったときに、この方の欲求を理解できる人がいて欲しい。」とお願いしました。それ以来お兄ちゃんと、とても元気な妹が、一緒にサッカーを楽しみました。

10年を超えてのおつきあいですが、妹もお兄ちゃんも、お母さんもお父さんもみんなそれぞれに頑張っています。この方にも、いつかは一人暮らしが出来て、年金と工賃で生活できるようになってほしいと思っています。

この写真は、23年10月にJKAの補助金で購入した送迎車の走行距離メーターです。

1年で2万7千キロを超えました。燃費は15キロメートル弱。



乗り心地も良く運転アシストや安全装置もあり、快適に運行しています。利用者さん達も、乗降口の開口部が広く、乗車後うしろの座席への移動がしやすいので、乗降時のトラブルが減りました。燃費が良いので、ガソリン価格高騰のこの時期、管理者としてはとても助かっています。

エマオの報告の中で欠かせないのはバザーです。今年度も一年の最後、2月28日・3月1日にバザーを開催しました。

来客の中には9時の開店なのに7時半には、会場の入り口に椅子持参で待っている常連さんもあります。

昨年末のバザーは、かにた婦人の村の引っ越しがあり、かにた婦人の村からのお手伝いが少なく心配しましたが、ボランティアさんの協力を得て、何とかバザーを終えられ、ほっとしました。

「今回こそ」と臨んだ春バザーでしたが、今度は、かにた婦人



の村の利用者さんが亡くなり、告別式等が入ってしまい、またまたピンチ。そんな中、告別式前に、かにた婦人の村の施設長ほか職員4人がお手伝いに来て下さり、何とか2日間のバザーを終えることが出来ました。

これからもいろいろあると思いますが、40年以上続いたバザーは続けたいと思います。

かにた作業所エマオ

佐々木 清

【審議】

編集後記

第1号 2024年度第2次補正予算の

件

第2号 評議員候補者推薦の件

第3号 理事・監事候補者推薦の件

第4号 法人本部事務局員任用の件

第5号 評議員選任・解任委員会開催の

件

第6号 その他

1 かいた婦人の村への寄附申し出と

提案について

2 かいた婦人の村の多機能作業棟建

設(第二期整備計画事業)につい

て

3 茂呂塾保育園の次年度定員の件

理事・監事全員の賛成で原案通り議決

理事会報告

★第260回理事会

2025年2月1日

【報告】

第1号 業務執行理事報告

第2号 その他

1 かいた婦人の村への寄附申し出と

提案について

2 かいた婦人の村の多機能作業棟建

設(第二期整備計画事業)について

今後の理事会・評議員会予定

★理事会

第261回 25年3月29日(土)

第262回 25年6月7日(土)

第263回 25年6月28日(土)

★評議員会

第20回 25年6月28日(土)

主の大きな御名を讃美いたします。

かいた婦人の村建替事業も無事に進み、皆様のお祈りとお支えにより昨年11月末に竣工し、2月11日に多くの皆様と落成感謝礼拝と式典を行い、喜びを分かち合うことが出来ました。ご支援下さった皆様に心より感謝申し上げます。

当法人とかいた婦人の村にとりまして奇跡的な事業が実現しましたことは、神様の大きなお力とお働きによるものとお心より感謝している次第です。(大沼)

2025年3月15日発行(年3回)

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

印刷所 (株)印刷センター

発行所

〒178-0006

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家

電話 03-3924-2238

<https://www.bethesda-dmh.org/>

振替口座 001900-2-138164